

【樹木の部屋】

セイヨウバクチノキ（バラ科サクラ属 *Prunus laurocerasus*）

和名：セイヨウバクチノキ（西洋博打の木） **別名**：ビランジュ（毘蘭樹）

英名：cherry-laurel

バラ目 常緑小高木

原産地：ヨーロッパ南東部、アジア西部

花言葉： **花の色**： 白



← 写真-1 セイヨウバクチノキの花

撮影日：2018年04月21日

撮影場所：メテオラ（ギリシャ）にて

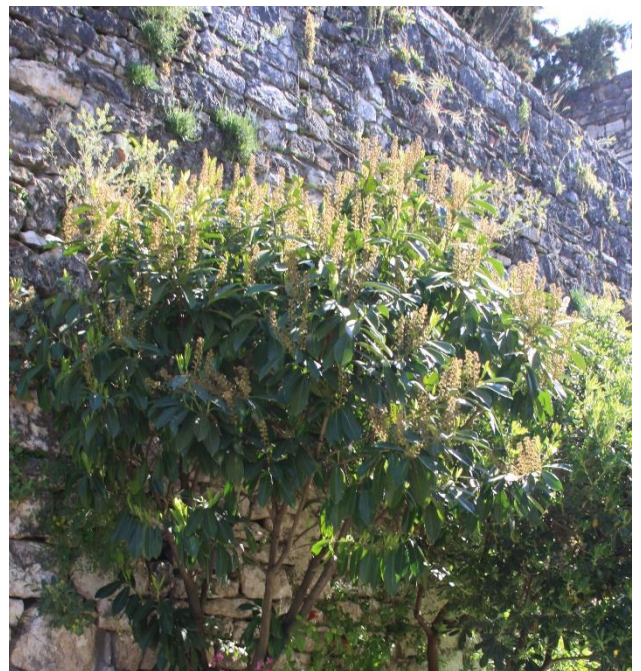
撮影者：M さん

↘ 写真-2 セイヨウバクチノキ

撮影日：2018年04月20日

撮影場所：イオアニナ（ギリシャ）にて

撮影者：M さん



← 写真-3 セイヨウバクチノキ

撮影日：2018年04月20日

撮影場所：イオアニナ（ギリシャ）にて

撮影者：M さん

ギリシャ北部の町、イオアニナとカランバカに

あるメテオラを訪れた際、見かけました。写真-1は、メテオラのアギオス・ステファノス修道院の中庭に、写真-2、3はイオアニナ要塞の中にあるアスラン・パジャのモスク入り口近くの民家の庭先に植栽されていました。イオアニナでは、すでに花後でしたが、翌日訪れたメテオラでは満開でした。

花期は4～5月頃で、多数の小さな白花を穂状につけます。ヨーロッパでは刈り込んで生垣や境栽にされることが多く、比較的耐寒性の強い常緑樹として、遮蔽目的に使われるそうですが、葉が大きいので住宅の生垣には適さないそうです。

葉は皮革質でやや厚く、光沢があり、互生。サンゴジュに似た質感と大きさです。

近縁関係にある日本のバクチノキ(バラ科サクラ属)に似ていることからセイヨウバクチノキと呼ばれているそうです。また、学名はゲッケイジュのような葉を付ける桜という意味だそうです。

タラヨウ(モチノキ科モチノキ属)と同じように、葉に釘などで字を書くと、やがて書いた部分が黒くなり、字が浮き上がってくる。きれいな死環ができるそうです。が、セイヨウバクチノキでは、裏に書いても表まで黒くなってしまうそうです。表から見ると字は逆文字。

春に葉を採取して断細し、水蒸気蒸留で、ラウロツェラズス水を作り、これを1回に20～40CCそのまま服用すると鎮咳に効果があるそうです。

秋に紫黒色に熟す前の果実は、薬用酒にする。集めた果実をそのまま、ワインかホワイトリカー2～3倍量に漬け込み数ヶ月冷暗所に置き、1回に約30CCを、食前か食後に飲用すると疲労回復に効果があるそうです。

<ちょっと一言>

*バクチノキとセイヨウバクチノキ

- ・バクチノキは成長に伴い樹皮が剥げ落ちる様子を、博打に負けて身包みをはがされることになぞらえて命名されたものだそうです。セイヨウバクチノキの樹皮は剥離しません。
- ・セイヨウバクチノキは株立ち状に育ちますが、バクチノキは単幹で育つことが多い。

*死環

- ・主に常緑広葉樹の特定の種の葉を部分的にライターやタバコ、蚊取り線香の火で熱した場合に、直に熱せられた周辺部に現れる黒い円環のことを指す言葉。